

博士論文内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨

氏名(生年月日)	時田 春樹	(****年**月**日)
本籍	*****	
学位(専攻分野)	博士(感覚矯正学)	
学位授与番号	甲第138号	
学位授与日付	平成28年3月14日	
学位授与の要件	学位規程第3条第3項該当	
論文題目	脳卒中急性期における神経心理学症状の研究 -注意障害と局在性の高い神経心理症状-	
審査委員	教授 彦坂 和雄	教授 小坂 美鶴
	教授 松本 真	教授 種村 純

博士論文内容の要旨

第1部では注意障害とその改善に関する検討として、急性期脳卒中患者の標準注意検査法データの経時比較により、急性期に改善を示す注意課題と改善が認められない課題の別を明らかにした。改善する課題は焦点性注意および選択性注意に関する課題で、持続性注意、分割性注意および転導性注意に関する課題は改善を示さなかった。後者の課題群は前頭葉が関わる注意の制御課題とまとめられる。注意課題は神経学的背景の異なる2群に分かれた。第2部では脳卒中急性期に限局病巣に伴って種々の神経心理症状を呈した症例を取り上げその病巣を検討した。失音楽では左側頭葉、変形視では脳梁膨大部後部領域、記憶障害では脳弓と扁桃核、触覚性失認では右中心後回、地理的障害では右の海馬傍回、脳梁膨大後部領域および頭頂葉内側部、発話障害は島、失読失書は左の中前頭回と側頭葉後下部にそれぞれ限局した病巣を認めた。これらの部位は諸感覚の一次領域およびその連合野付近であった。大脳後方部において感覚情報の入力および処理が行われることが確認された。

博士論文審査結果の要旨

予備審査会で指摘された事項およびその他の修正事項を確認した。第1部において注意と意識の概念的関係に関する議論を削除し、注意検査改善データを明示した。第2部では個々の症例研究と注意障害との関連に関する記述を削除した。議論は注意の障害に関する2区分の根拠に集中し、学位申請者はデータの上では急性期脳卒中患者における改善の有無、背景神経過程として前頭葉の関与の有無が考えられると回答した。第4章において、注意障害に関する理論家の相違について明確でなく、記載の再検討が求められた。第5章「急性期脳卒中患者における注意障害の改善について」に関して、結果の記載区分と考察とが対応せず、また各検査の意義付けが明確でないとの指摘があった。さらに第3部「総合考察」において、第1部と第2

部の結論が適切に反映されることが求められた。以上について書き直しが行われ、適切に書き直されていることを審査員が確認した。